報徳@なう
発行人：本岡俊郎

今年の展望

昨年フードバンクの環境は大きく変わりました。二年前に始まった食品価格の上昇は、実感として二割以上になっています。その一方で経済活動が正常化するとともに人手不足が深刻になり賃金が上昇していますが、年金生活者など収入が固定している層の生活は苦しくなっています。

それらの動きがフードバンクに与えた影響ですが、まずコロナの為不振を極めた外食産業から提供された米がまったく来なくなりました。食品メーカーは、値上げによる購入の落ち込みが回復するまで生産を絞っているために、販売不能品の発生も激減しました。長期的にも国内の食品市場は縮小を続けているため、メーカーは無理な競争を避けて、製造と販売のバランスを取ろうとしていますから、今の状況は常態化するでしょう。

個人からの食品寄付「フードドライブ」も減っています。家計のバランスを維持するためにできるだけ無駄な買物はしません。余裕のあった時は、寄付用に魚の缶詰を買ったりしていましたが、それも止めました。その結果として、令和五年九月から十一月迄の三か月間の入荷量は 11 ㌧、前年の同期間が 20 ㌧でしたから、ほぼ半減しました。唯一普及に力を入れている冷凍食品だけは、四㌧で倍増しました。



受領者側の状況ですが、失業者への支援は落ちついて来ました。影響が大きかった箱根の観光産業も働き手の多くが箱根を去ってしまい極端な人手不足状態になっています

その一方で働きたくても子育てなどの事情で条件の合う仕事が見つからない人、高齢であっても働かざるを得ない人には要望に見合う給料が出る仕事が見つかりません。とりわけ支給額が増える見込みのない年金生活者や生活保護受給者は元々生活費の内で食費の占める割合が高いので、厳しい状況に追い込まれています。令和五年九月から十一月迄の三か月間の配布実績は、14 ㌧、前年の同期間が 19 ㌧に対して 26％減りました。

それでも、今のところ配る食品が足りない状況ではありません。全体で見れば、就業の機会が戻って来たことで、緊急支援を必要としている人が減っています。加えて令和五年九月から今年一月迄の五カ月間子ども家庭庁の助成金による米と食品が毎月提供されている団体が少なからずあるので、足りない所を補っています。対象の家庭には、毎月米 5 kgと 13 kg程の食品が提供されています。

今年の展望ですが、メーカーからの寄贈は回復が見込めません。長年の関係があるメーカーからの受領を維持します。災害用備蓄品の乾パンや水へのニーズは減っていて、代わりに冷凍食品の拡充に力を入れ、量よりも品質の向上を目指します。子ども家庭庁からの助成も続く見通しなので、上手く活用して不足する所を補います。そして、本当に困っている人達を見つけて助けることは実は難しいのですが、役所との連携も大切にして、公営住宅での配布会等きめ細かい活動を拡げ、配布する量は追わずに、質の向上を重視していきたいと考えています。

多数のご支援をいただきました。

日本新薬株式会社様

定期的に社内にてフードドライブを開催し、日常生活に密着した食品を提供いただいております。



三菱ガス化学株式会社様



いろいろな種類の食品をたくさんいただきました。

報徳食品支援センター　〒250-0212 小田原市西大友 136－1　℡070-1432-9559　houtoku.foodbank@gmail.com

薬糧開発株式会社様

日本ヴァリュアーズ株式会社様

ピザとパウンドケーキを
子どもたちにプレゼント！
素敵なクリスマスになりました。





鈴廣かまぼこ株式会社様

株式会社籠清様

高級かまぼこと伊達巻をいただきました。
いつもとは違った豪華なお正月を
過ごせました。





JA かながわ西湘様



女性ならではの食品を
笑顔いっぱいでご支援
いただきました。

より困っている人に渡す。

生活が苦しい方に食品を支援する仕事を続けてきましたが、難しいのは本当に困っている方を助けることです。世の中には大勢「私は苦しい生活をしている」と思っている方がいますが、そのレベル（段階）は様々です。例えば、今、五個のパンがあり、それを求めている人が十人いるとします。あなたならどうされますか？多くの方は、そのパンを半分ずつに切って、十個にして配りますと答えるでしょう。しかし、私のやり方は違います。求める十人の方の困窮の度合いを知って、最も困っている方から順番に五人に配ります。六人目の方から十人の方には渡しません。

この私の方法を批判される方は多いと思います。また、判断は簡単でなく責任を強く感じます。でも、限られた食品を最も有効に生かして使うには、大切な原則です。同じパンを配っても、困窮度の高い人の喜びとそうでない人のそれはずいぶん違います。そして、現実にはそのような本当に困っている方を探すのは実はとても難しいのです。携帯電話を持っていない人は、フードバンクに電話を出来ません。SNS で流される提供の案内を見る事もできません。そのような状態にある人を助けてあげたいという人達の協力で道筋が開けられるのです。

私達フードバンクを運営する立場の者は、常にこの原則「一番困っている人を助ける」を胸に抱いていたいと思います。

今年一月半ば、売れ残った高級おせち料理が三〇個提供されました。提供者の希望は、おせち料理を食べることができなかった家庭に渡して欲しいでした。私達は、いくつかのひとり親家庭を支援をしている組織や、福祉関係の仕事をしていて実情をよく知っている方に、そのような方を探して欲しいとお願いしました。

提供された数が三十個しかなかったから、逆に本当に喜んでいただける方に届けることができました。良い経験になりました。

おせちに感動！
～喜びの声～

先日はおせち、ありがとうございました。初めてのおせちに、息子とひとつひとつ、これは何？こっちはどう？と会話も楽しみながら、つかの間のお正月気分を味わいました。このような家族の時間もいただけて本当に感謝です！

